

地域の「いま」と「未来」のこと

2019年度

# 地区協議会 活動報告会

2020年  
2/15(土)

14:00～16:00  
町田市民フォーラム  
3Fホール



発行:2020年2月15日  
町田市市民部市民協働推進課  
042-724-4362(直通)

この冊子は500部作成し、1部あたりの単価は368円です(職員人件費を含みます)



地域の「いま」と「未来」のこと

2019年度

# 地区協議会活動報告会



## 目次

1. 地区協議会について .....	4
・地区協議会とは？	
・地区協議会の区域	
2. 各地区協議会の紹介 .....	6
(1) 南地区協議会	
(2) 町田第二地区協議会	
(3) 原町田地区協議会	
(4) 鶴川地区協議会	
(5) 玉川学園・南大谷地区協議会	
(6) 忠生地区協議会	
(7) 高ヶ坂・成瀬地区協議会	
(8) 木曽地区協議会	
(9) 小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会	
(10) 相原地区協議会	



## 地区協議会について

### 地区協議会とは？

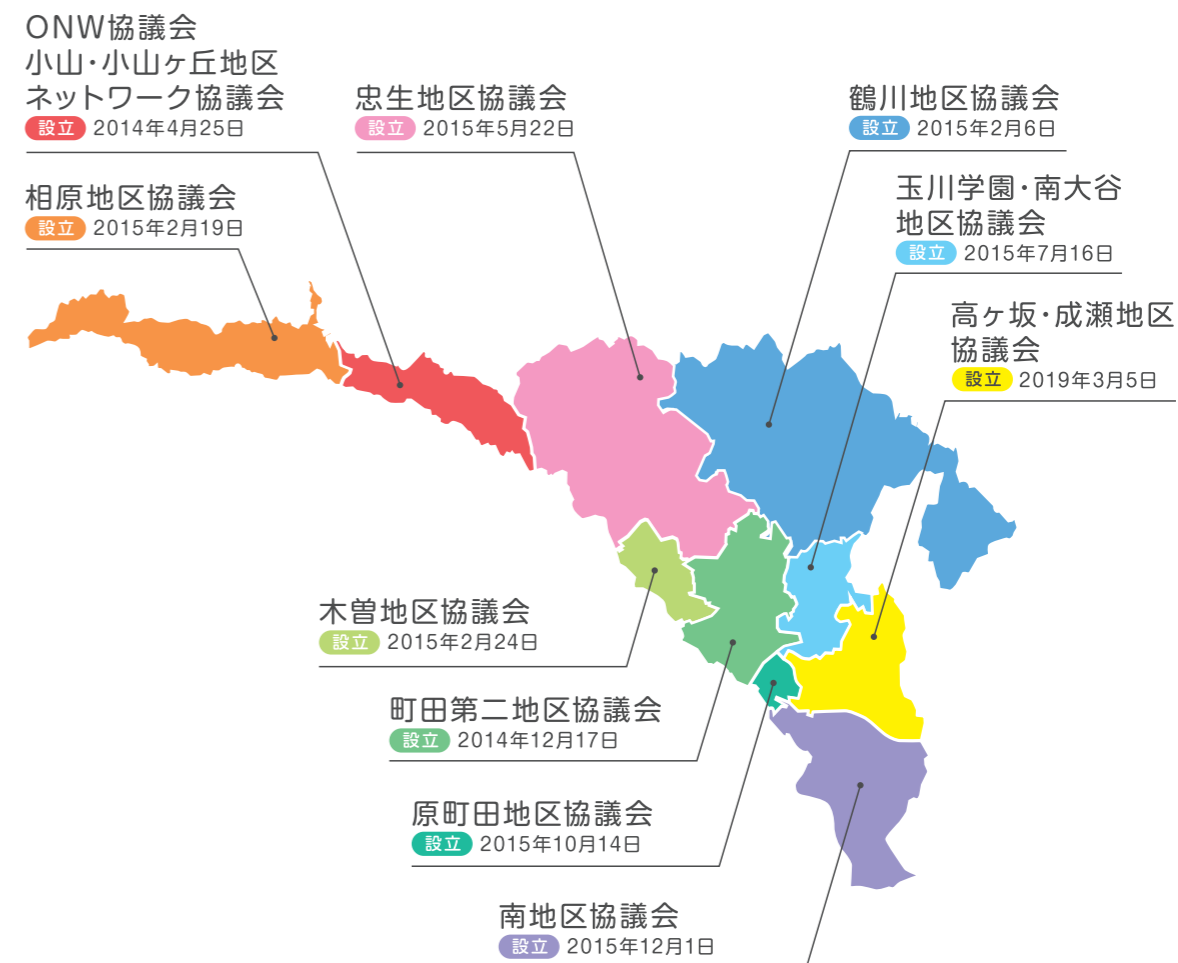
地区協議会とは、地区の課題を解決し、地区の魅力向上のために、様々な団体が集まって知恵を出し合い、協力しながら取り組むネットワーク組織です。町田市内全10地区で設立されており、地区の特性に合わせた様々な事業に取り組んでいます。

地区協議会には、町田市町内会・自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の3団体が参加しています。その他の構成団体は、各地区協議会で異なっており、小・中学校や高校、大学、社会福祉法人、消防団など、様々な団体が参加・協力しています。

市では、活動拠点の確保、地域予算の交付、及び運営支援や市との連絡調整を行う地区担当職員（地域おうえんコーディネーター）の配置を行うとともに、地区協議会の活動の魅力や効果を積極的に発信しています。



## 地区協議会の区域



各地区の活動の詳細は  
町田市ホームページをご覧ください。



構成団体 25団体

## 南地区協議会

### 区域

小川、金森、金森東、つくし野、鶴間、成瀬が丘、南つくし野、南町田

### 2019年度 主な取り組み

- 地域の見守り事業(福祉フェア)
- 地域交流事業(南カフェ)
- 子どもの見守り事業
- 広報広聴事業
- 地域交流事業(焼き芋プロジェクト)

# 団体同士のつながりで、 地区のみんなの 「やりたいこと」を実現



構成団体 21団体

## 町田第二地区協議会

### 区域

旭町、中町、本町田、森野

### 2019年度 主な取り組み

- 連携促進事業  
(広報紙発行、さくら祭り開催)
- 防災・防犯事業
- 子どもの見守り事業
- 高齢者の見守り事業



笑顔でやさしい  
まちづくり

南地区協議会では、みんながいつまでも住み続けたいまちを目指して、団体同士が自主・自立を尊重しながら、協力して地域の課題解決に取り組んでいます。今年度は、団体間の協力体制を強化するため、実行委員会形式でのイベント実施に取り組みました。

### 福祉フェア

南地区の高齢者、障がい者、子ども等の福祉分野で活動する団体が一堂に会して行う、体験型のイベントです。福祉分野に特化したイベントということで、注目が集まりました。

子どもから高齢者まで幅広い世代の831名が来場し、福祉機器の体験会や相談コーナー、薬に関するミニ講演会などに参加しました。また、出展団体28団体が、準備や当日の会場運営を通じて、交流を深めることができました。

### 南カフェ

今年度から実行委員会形式で開催となった南カフェ。出展団体27

団体が集まる実行委員会を3回行い、みんなでイベントを作り上げました。実行委員会の中心メンバーには、ボランティア経験が豊富な方や若い子育て世代などが参加。それぞれの得意分野を活かし、お互いに協力しながら、南カフェを成功に導きました。

当日は、南地区で活動する団体が活動紹介の展示や体験コーナー、手作り品の販売などを行い、多くの人で賑わいました。

### 小学生通学路の「一斉見守り」

秋の交通安全運動に合わせて、南地区の7小学校の通学路の一斉見守りを実施しました。実施にあたっては、学校をはじめとした構成

団体が連携し、見守り実施の周知を行いました。

当日は474名が参加し、それぞれの区域で通学路の見守りを実施しました。終了後は、見守り活動を通じて気づいたことを共有し、子どもを見守る地区のつながりを促進するきっかけになりました。

### 南地区の活動をもっと盛り上げる

南地区協議会では、今後も南地区で活動する団体の活動をさらに盛り上げていくため、活動の推進やバックアップを行います。いつまでも住み続けたいまちを目指して、南地区で活動する団体や地区の住民との「つながり」を大切にしながら活動していきます。

町田第二地区協議会では、設立以来、「防災・防犯」、「子どもの見守り」、そして「高齢者の見守り」を事業の3本柱として取り組みを進めています。高齢者の見守り事業では、様々な視点から見守りの取り組みを行っています。

### 高齢者のネットワークづくり

設立当初は、「高齢者の見守りネットワーク」を作ることを主な目的としていました。現在では、町内会・自治会をはじめとした17団体が、地区内で見守り活動を行っています。

### ネットワークづくりから研修会へ

2017年度からは、見守り活動のための研修や講演会の実施に力を入れています。2017年度は認知症の研修会を実施し、参加者は認知症サポーターの証であるオレンジリングを受け取りました。2018年度は、特殊詐欺被害防止の研修を実施。警察署の方のお話を始め、漫

才や落語を楽しみながら特殊詐欺から身を守るための勉強会を行いました。

今年度は、認知症当事者の方に参加していただき、講演会を実施しました。認知症になってもちょっとした支えがあれば住み慣れた地域で十分生活していくことができることを学びました。

### 笑顔でやさしいまちづくり

見守り体制を強化していくためには、知識をいかに広め、一人一人がどのように活動するかが重要です。講演会や研修会には毎回80名程度の方にご参加いただいておりますが、参加者を増やしていくことは難しいという現状があります。

そのため、既存の取り組みである「町トレ」や「ふれあいサロン」、町内の清掃・美化活動など、多くの高齢者が参加するイベントに「見守り」の視点を取り入れて、有効な見守り手段に変えていきたいと考えています。あまり形にこだわらず、今ある地域の取り組みと組み合わせ、見守り活動を継続していきます。

過度の見守りではなく、住民同士がさりげなく気を使い、困った時には遠慮なく助けを求めることのできるような地域となること、それが「笑顔でやさしいまちづくり」だと考えます。高齢者の見守りだけでなく、子どもの見守りでも「笑顔でやさしいまち」を目標に取り組みを進めていきます。

構成団体 11団体

## 原町田地区協議会

区域

原町田

### 2019年度 主な取り組み

- 広報広聴事業
- 地域交流事業
- 地域住民との対話事業
- 子どもの見守り事業
- お年寄りの見守り事業

「感じていること」  
「思っていること」  
そして「できること」



原町田地区の住民の方にお集まりいただき、気軽な雰囲気の中で、「日頃感じること」「よりよい地域とするために自分にできること」等について話し合う「原町田について話してみる会・聞いてみる会」を開催しています。

### 「原町田について話してみる会・聞いてみる会」

「地区協議会としてどのような取り組みを行えばよいのか」を検討していく際の参考とするため、原町田地区の住民の方に集まっただき、広く意見を聞く場として事業をスタートしました。

### 気軽な意見交換の場

4回目となる今年度は、原町田地区にお住まいの女性の方20名にお集まりいただきました。

対話のテーマは、「原町田地区のいいところ、好きなところ」「原町田地区で日常的に気が付く小さな改善ポイントで、みんなの力で解決できそうなものがあるとしたらどんなこ

とか?」そして「原町田地区の10年後、私が幸せを感じる地域とは?」の3つでした。当日参加された方が参加者全員と意見交換ができるよう、テーマごとにメンバーを変えるワールドカフェ方式で行いました。グループには地区協議会のメンバーも入りしました。大部分の方は初対面でしたが、最初のテーマを話し合う段階から盛り上がり、活発に意見交換がなされました。

終了後のアンケートでは、ほぼ全員が「また参加したい。」ということでした。感想や意見としては、「新しい発見ができた。」「もっと地域の人と交流していきたい。」「いろいろな世代の方と話ができてよかった。」「地域とつながりたいと思っている

人が多いことを感じた。」「長く住む人から新しく住み始めた人へ話が聞ける場があるとよい。」など、大変好評でした。

### 今後の展望

この事業は、普段感じていること、考えていることを同じ地区に住む方向士がリラックスした雰囲気の中で話す「場」として、参加者の満足度が非常に高い事業です。特に、今回は女性に限定したことで、予想以上に話が盛り上がりました。

今後も、より多くの方に参加していただける会にするとともに、この会で出た様々なお話を参考に、原町田地区を魅力ある地域にするための取り組みを進めていきます。

構成団体 52団体

## 鶴川地区協議会

区域

大蔵町、小野路町、金井、金井町、真光寺、真光寺町、鶴川、能ヶ谷、野津田町、広袴、広袴町、三輪町、三輪緑山、薬師台

### 2019年度 主な取り組み

- 広報広聴事業
- 鶴川くらしの総合相談事業
- 鶴川deハロウィンウォーキング事業
- 鶴川災害対策会議事業
- 鶴川見守りあいさつ運動事業
- 地域活性化事業

(フードバンク・学習支援・子ども食堂の運営、囲碁将棋を通じた多世代交流、三輪地区をはじめとした有機農地や竹林管理の継承、世代を超えて地域とつながる音楽イベントの開催、小さな一歩電話相談室、ユニバーサル大会)



地区のみんながつながって、暮らしやすいまちをつくる



鶴川地区協議会では、地区の住民の交流や、安全・安心なまちづくりに力を入れて取り組んでいます。地区協議会に参加している様々な団体が、それぞれの強みを活かして、連携協力しながら活動を行っています。

### 3水スマイルラウンジ

鶴川地区の交流拠点として、毎月第三水曜日に開催している3水スマイルラウンジ。生涯学習センターと協働で実施している「学びのひろば」や、親子で参加する「わくわくひろば」などのイベントが行われています。また、地域の企業と協力して実施している相談コーナーのほか、地区の方々の「できる事」を活かした「TALK」というコーナーなど、地区の情報交換や多世代交流の拠点として定着しています。

### 特殊詐欺被害防止運動

2018年度から、特殊詐欺対策にも力を入れて取り組んでいます。毎月

第三水曜日に鶴川駅北口において、「特殊詐欺被害防止キャンペーン」を町田警察署と合同で実施しました。啓発チラシ等の配布をしながら注意喚起を行い、一定の成果が上げられました。今後は子ども達にも特殊詐欺を知ってもらうための取り組みを予定しており、被害防止に向けた活動を徹底していきます。

### 鶴川OMOTENASHI祭り

香山園をはじめとした、鶴川にある古民家の活用方法について相談を受けたのがきっかけで、「鶴川のインバウンドを考える会」を設立。地区協議会の構成団体や行政とも協力しながら、「まちだ〇ごと大作戦」の事業として「鶴川OMOTENASHI祭

り」を実施しました。

地区内4箇所の古民家を開放し、お茶会や骨董市、演奏会、展覧会などのイベントを行いました。また、鶴川地区協議会の事業として毎年行っているウォーキングイベントを同時開催。鶴川地区のみんなでイベントを作り上げました。

### 人が繋がって生きるまちへ

これらの事業は、地区協議会に所属する団体が、それぞれの得意分野を活かし連携協力しあうことで、実現できたものです。今後も、鶴川地区協議会では、それぞれの団体の強みを活かしながら、「みんなが誇れるまち、鶴川」を目指していきます。

構成団体 27団体

## 玉川学園・南大谷 地区協議会

### 区域

玉川学園、東玉川学園、南大谷

### 2019年度 主な取り組み

- 子どもが遊べる広場事業
- 玉南・玉ちゃんサービス事業
- 街かど・なんでも相談室
- 玉南まちカフェ事業
- 広報事業
- 玉川学園盆踊り「玉川音頭」の復活事業
- おむすび食堂
- はなびら市地域交流事業
- まちづくり顕彰事業



構成団体 29団体

## 忠生地区協議会

### 区域

小山田桜台、上小山田町、下小山田町、函師町、忠生、常盤町、根岸、根岸町、矢部町、山崎、山崎町

### 2019年度 主な取り組み

- 広報事業
- 交流親睦事業



玉川学園・南大谷地区協議会では、地区内の団体から事業を募集し、その活動を支援しています。今年度支援している9事業のうち、玉川学園地区社会福祉協議会が実施しているのは、地区の困りごとをみんなで解決する仕組みづくりです。

### 玉南・玉ちゃんサービス

日常生活で困っていることを、住民同士で支えあうための活動です。「小さなことでも気軽に頼める」と「ちょっとの時間で手助けできる」の橋渡しを行い、「お互いさま」を合言葉にサービスを提供しています。内容は、買い物への同行や見守り、庭掃除、子育てのお手伝いなど、さまざま。地区の中に協力者がいる事で安心できるという声も多く、利用者も年々増加しています。

地区協議会では、広報で支援しているほか、今年度は、玉川学園地区のみで実施されていたこの事業を、南大谷地区で立ち上げるための準備のバックアップを行いました。

### 街かど・なんでも相談室

まちの中に気軽に立ち寄って相談できる場をつくる取り組みです。今年度からの新規事業で、地区協議会は相談室の立ち上げの支援や、活動の周知を行いました。

構成団体の中で、子育て分野や福祉分野で活動する団体が集まり、準備会を重ねて9月にスタートしました。商店街の店舗の定休日にお店を借りて、月に3回ほど開催しています。玉川学園地区社会福祉協議会に登録している団体の専門相談員が、子どもから高齢者まで、幅広い世代の相談を受け付けています。

今後は、「街かど・なんでも相談室」の存在をさらに周知します。あ

わせて、気軽に立ち寄って意見交換を行う「しゃべり場」としても幅広い世代に利用してもらえるよう、働きかけを行います。

### みんなの意見でより良いまちに

11月に玉川学園地区社会福祉協議会で、「わが街・気づきのアンケート」を実施し、地区の住民の方々の意見を集めました。今後は、このアンケートを地区協議会内でも共有し、現在行っている事業の見直しや、新規事業の検討を行い、いつまでも安心して暮らせるまちを目指していきます。

忠生地区協議会では、「地区で子どもたちを育てていこう」という思いから、子どもたちが地区の中で活躍する場づくりや、世代間交流の場づくりに取り組んでいます。また、団体同士が定期的集まることで、地区の情報の共有を行っています。

### 忠生子どもフェスティバル

「子どもたちに地元で活躍の場を」という思いのもと、2017年度から子どもたちを主人公にしたイベントとして実施。今年度は、幅広い世代の650人の参加があり、子どもたちの発表をみんなで楽しみました。毎回新たな団体から出演の希望があり、地区の子どもたちの恒例行事として定着しつつあります。

今年度は、地区で活動する福祉団体の手作り品の販売、警察や保護司会、社会福祉協議会などの団体PRブースのほか、子ども会によるチュロスやポップコーンなどの販売もあり、地区の様々な団体がイベントを盛り上げました。

準備は6月頃から行い、全5回の実行委員会を開催。実行委員会には、若い子育て世代や福祉団体の参加もありました。また、桜美林大学の学生と協力し、チラシや記録DVD作成も行いました。

### ホームページ立ち上げ

昨年度から立ち上げに取り組んでいたホームページが、今年度から本格的に始動しました。地元で作成のノウハウを持った方に依頼し、オリジナルのページができました。地区のみんなで更新できるよう、更新方法の勉強会を開催しました。

ホームページには、地区内のスポーツ大会やお祭りなど、地区の情報をまとめて掲載しています。子

どもたちに、もっと気軽に地域のイベントに参加してもらうことを目指しています。

### 連絡会で情報共有

全構成団体が集まる連絡会を、年3回開催しています。各団体がそれぞれ近況報告を行い、地区の情報を共有することで、各団体が連携協力できる関係づくりを進めています。

今後は、忠生地区の魅力を高めるための活動をしている個人や団体の意見を広く聞き、交流するような場を設けていきたいと考えています。

構成団体 13団体

## 高ヶ坂・成瀬地区協議会

区域

高ヶ坂、成瀬、西成瀬、南成瀬

2019年度 主な取り組み

● 広報事業

## 誰もが気軽に活動に 参加できる 仕組みづくり



2019年3月に新たに設立された高ヶ坂・成瀬地区協議会では、地区協議会の周知や活動の準備を行ってきました。また、誰もが気軽に活動に参加できるように「高ヶ坂・成瀬ニューパワーズ」を立ち上げ、参加者を募集しています。

### 設立にあたって

高ヶ坂・成瀬地区協議会は、4年かけて設立の意義についての検討を重ねてきました。検討にあたっては、他の地区の事業などを参考にしながら、高ヶ坂・成瀬地区で何ができるかということを考え、十分な話し合いを行った結果、設立する運びになりました。

### 広報事業

高ヶ坂・成瀬地区協議会のことを、地区の方々に広く知ってもらうため、今年度は広報事業を実施しました。地区協議会の活動内容や構成団体を紹介する広報紙の発行と、ホームページの立ち上げを行い

ました。

また、9月に開催された成瀬コミュニティセンターまつりでは、運営に協力しました。地区協議会の案内チラシを配布し、訪れた多くの方に存在を知ってもらうきっかけになりました。

### 「高ヶ坂・成瀬ニューパワーズ」

既存の団体に所属していない地区の方に、気軽に地区協議会の活動に参加してもらうために、「高ヶ坂・成瀬ニューパワーズ」を立ち上げました。地域活動に参加してみたいと思っている方、定年後に時間の余裕ができた方、子育てがひと段落して自分の時間を持つようになった方など、若い世代

から高齢者まで幅広い世代の方が地区協議会の活動で新たな力（ニューパワー）を発揮できる場になっています。

### 今後の展望

毎月一回「役員会」「全体会議」を開催し、今後の活動についての検討を行っています。来年度は、引き続き広報事業を行っていくほか、「高ヶ坂・成瀬地区音楽祭」「清掃活動」「スマホ教室等」の実施を予定しています。

高ヶ坂・成瀬地区全体で交流親睦を深め、課題解決に取り組むことで、地区全体の活性化を図っていきます。そのために、高ヶ坂・成瀬地区の住民の方々を巻き込みながら、活動を推進していきます。

構成団体 16団体

## 木曾地区協議会

区域

木曾西、木曾東、木曾町

2019年度 主な取り組み

- 広報広聴事業
- 地域活性・交流事業  
「木曾の歴史クイズラリー」
- 地域活性・交流事業  
「防災・防犯事業」

## 団体からのアイデアで、 地元をもっと面白く



木曾地区協議会では、安全・安心なまちを目指して、日々の情報共有と住民の交流に取り組んでいます。構成団体同士の意見交換を通じて、地区での活動をもっと面白くするためのアイデアがたくさん生まれています。

### VR/ARを使った災害体験・講習会

構成団体である木曾境川小学校から、VR/ARを使ったリアルな災害の疑似体験ができる防災訓練を児童と地区の方を対象に実施したいという提案がありました。

地区協議会では、体験を共有し、災害時に助け合っていく気持ちを醸成していくことが大切と考え、この防災訓練を実施することになりました。災害の疑似体験の他に、楽しい実験を交えながら自然災害を学ぶ「Dr. ナダレンジャー」による講習会も実施しました。

今年度は、木曾境川小学校と忠生第三小学校の2会場で合わせて小学生約150名、地区の方々30名

の参加があり、地区のみならず災害について考える機会になりました。

### 団体同士の連携から広がる活動

「子ども達の夢を応援するプロジェクト」は、青少年健全育成中学生第6地区委員会が主体となり、地区協議会の構成団体とも連携しながら、「まちだ〇ごと大作戦」の事業として実施しました。木曾地区に住む子ども達が、自らの特技を発表し、地区のみならず子ども達の成長を見守ることを目的としています。

歌やダンス、演奏などの発表があり、イベントは大盛況となりました。また、参加した子ども達から地区の別のイベントにボランティアとして参加したいという申し出が多

数あるなど、子ども達が自分たちの住む地区に目を向けるきっかけにもなっています。

### ネットワークを活かして

木曾地区協議会は、人・モノ・情報・資金をつなぐ場として地区協議会を使っていきたいと考えています。「やりたいこと」がある団体が地区協議会の場で提案し、構成団体の強みやつながりを活かしてみんなで実現していくという形が理想です。

そのために、今後も、団体同士が気軽に相談できる関係性と、木曾地区を良くしたいという共通の思いを大切にして活動を行っていきます。

構成団体 17団体

## ONW協議会 小山・小山ヶ丘地区 ネットワーク協議会

区域

小山ヶ丘、小山町

2019年度 主な取り組み

- ONW協議会広報事業
- オープンガーデン広報事業
- ふれあいを深める事業
- 安全・安心な街づくり事業

## 子どもに優しく、 子育て世代が 住みやすいまちへ



小山・小山ヶ丘地区は、子育て世代が住みやすいまちを目指して、様々な取り組みを行っています。子どもたちの笑顔が、地区でボランティアを行う人たちの生きがいにもなっています。

### 子どもの見守り

町内会・自治会やPTAを中心に、登下校時の見守りを実施しています。それぞれの区域の特性に合わせて、重点的に行う時間帯や場所を決めています。見守りを行う際には、揃いのオレンジ色のベストを着用。子どもたちに安心感を与えるとともに、見守りを行うボランティアにも一体感が生まれています。

### 交通安全・防犯の標語看板

子ども目線の標語看板を作成することにしました。小中学校に標語を募集したところ、200作品以上の応募がありました。入賞した子どもたちには、表彰状と記念品を贈呈。自分の標語が

看板になり、とても喜んでくれました。

### オープンガーデン

個人や学校、企業などの庭を公開するイベントで、設立当初から実施しています。今年度は、子どもたちにも来てもらうため、スタンプラリーを実施しました。サレジオ高専の学生がデザインしたクリアファイルのプレゼントがあり、子どもたちも楽しんで参加していました。イベントを通じて住民同士の交流が生まれ、地区内を歩くことで防犯にも繋がっています。

### ふれあいを深める事業

地区連合会のふれあいウォーキングをさらに盛り上げるために、ゴール地点でイベントを実施。今年度は台風

で中止になりましたが、構成団体をはじめとした様々な団体が協力して準備を行ってきました。サレジオ高専によるミニSLや電気回路でお絵描き、多摩美術大学によるライブペインティング、町内会・自治会による太鼓や子ども神輿など、各団体が連携協力し、幅広い世代が交流するためのイベントを作り上げています。

### 人が繋がって生きるまちへ

これからも、子どもに優しいまちを目指して、地区に暮らす幅広い世代が協力し、様々な取り組みを実施する予定です。今年度オープンした小山子どもクラブ「さん」とも連携協力しながら、子育て世代が住みやすいまちにしていきます。

構成団体 14団体

## 相原地区協議会

区域

相原町

2019年度 主な取り組み

- 広報・広聴事業
- 住民の生きがいづくり事業  
(ガラスフュージング千の花事業、相原地区ファミリースポーツ普及事業、おしゃべりクッキング事業、高齢者の居場所づくり事業)
- 地域活性化事業  
(真米の環境整備業、相原にぎわい創生事業、相原歴史研究事業、アートで人を繋げる事業)
- 大学との連携事業  
(相原想いの竹カフェ事業)



相原地区協議会は、地区内で活動している団体を支援することで、地区の活性化を目指しています。その中の「ガラスフュージング千の花事業」「おしゃべりクッキング事業」は、住民の生きがいづくりのためにしている事業です。

### ガラスフュージング千の花事業

地区の住民を対象に、フュージングという手法を使ったガラスのアクセサリー作りの教室を実施。放課後に学校で行われる子ども教室「まちとも」や、地域ふれあいサロン、高齢者施設、障がい者施設などに出向き、幅広い世代に「つくること」の楽しさを知ってもらう機会としています。相原地区にある地域サロン「スターキッズ」では定例で講習を実施し、子どもから高齢者まで、多世代間の交流の場にもなっています。

地区協議会では、運営のサポートを行っているほか、地区協議会で発行している広報紙に掲載し、活動の

周知を行っています。

### おしゃべりクッキング事業

地場産の野菜を使った料理教室を実施し、食を通じたコミュニケーションの場づくりをしています。地域サロン「スターキッズ」で毎月第三金曜日に開催しているほか、特別養護老人ホームでのランチ会や、子どもセンターばおでの乳幼児から小学生までを対象にした親子料理教室も開催。地区の住民にとっての交流の場になっています。

地区協議会では、会場提供をはじめとした運営のサポートや、事業の周知を行っています。

### 地区の資源をいかして住みよいまちへ

これらの事業は、構成団体をはじめとした相原地区の様々な団体が協力しながら、実施しています。上の2事業の他に8事業を実施しており、学生や地区の団体が連携し、相原地区の特性を活かした事業を行っています。

今後、高齢化が進んでいく中で、高齢者の移動が課題となっています。買い物や通院の支援のため、地区の住民が助け合いながら解決できる仕組みづくりを検討する予定です。いつまでもいきいきと暮らしていける相原を目指して、今後も活動を進めていきます。